

# 学校評議員による学校運営全般についての評価結果

令和2年度学校教育目標

**「自主的に判断・行動し、共によりよく生きる生徒」**

## 1. 学校経営について

○本校の教育計画は、生徒や保護者の願いを踏まえ、本年度の重点目標を推進するようになっていたか。

- ①コロナ禍の中、日々奮闘の1年、大変お疲れ様です。教育計画は大人に当てはめても良い計画だとこの1年感じておりました。特にIV-③に該当する家庭と地域におかれましては、農業体験や地域の方々とのふれあいも含み、困り事もヒアリングするという活動で、きっと湖北中生と、親、地域の方々ともじわりじわりと価値に気づく活動ではなかったでしょうか。
- ②学校運営について、あるいは重点目標等について、まだ評価できるも者ではありませんので、ほとんどお答えすることができません。しかし、いただいたアンケートを拝見し、お答えになるかどうか分かりませんが、2～3つ気づいたことを述べさせていただきます。ここで最も気づいた事は、情報発信の評価に見られるように、湖北中学の保護者の評価が高く、学校への期待の表れと思います。
- ③学校経営計画に基づく教育計画は、幅広い視点から教育目標に向けた計画であり、また実行されたと判断できる。コロナ禍の中、変則的な教育を強いられている中で、家庭の連携や生徒指導支援の適切さ、情報発信等で教職員と保護者がほぼ共通の肯定的認識を持っていることを高く評価したい。学び合い、地域との協働については、1年生の地域の積極的な対話や知る活動は、今後の「みんなで創る学校」の第一歩であったと思います。
- ④コロナ禍によって非常に学校経営も厳しい中だったと感じます。しかし、学校は一丸となって厳しい状況を乗り越える工夫と努力で、教育計画に沿ってできることを可能な限り推進していたと思います。今後もCSを目指して頑張ってください。
- ⑤我孫子市教育委員会内で行われる会議に参加する中で、市教委の発信内容に沿った行動活動になっていることが素晴らしいと感じました。石井校長先生を始め、栗林教頭先生の推進力の賜物であります。今年度に関しまして、生徒の行動を見ることができず、残念でしたが、来期以降、PTCAに移り替わる中、大変ではありますが、より地域の協力体制が作れることを私としても努力して参ります。
- ⑥概ね推進するものとなっていたと思量いたします。
- ⑦自己評価の集計方法が4段階評価であることが理由かもしれませんが、全体的に「大体そう思う」と評価してる割合が高いことが印象的です。
- ⑧主観に基づく評価ですから、難しい部分もありますが、「そう思う」と積極的な評価が得られる割合を高めるべく分析を深め、今後の教育計画及び運営に生かしていただきたく存じます。(特に保護者の評価が一般的に辛口となっている様に思いますので、要チェックかと存じます)
- ※なお生徒の自主性主体性を重んじ、一生懸命向き合ってくださいましたことを一部保護者として、心より感謝申し上げます。

## 2. 学習指導について

- 本校の学習活動は、生徒の実態や保護者の願いに合ったものになっており、生徒の学力（学習意欲、思考力等）を高める取り組みとなっていたか。

①登校できない、オンライン授業など大変でしたね。生徒の過半数が学習へ前向きに取り組めたことが1番の評価ではないでしょうか。親はいつの時代も自分の子には厳しくなりがちですが、自分の子供の頃を思い出せば胸も痛みます。「こんな状況下よく頑張ってるね」そんな明るい気持ちで見守りたいものです。

②家庭学習の定着、学力向上、個々を重視した授業等の視点で、教職員と保護者の間で若干のズレ(20%)が見られる事は気になります。家庭教育とは、一体どんな教育求められるのか?学力等は何か?学校(教職員)と保護者間でのコミュニケーションを深める方向を常に意識することが必要になると思います。情報共有の1つとして、ホームページの発信の一部(校長室よりや生徒活動)をメールマガジン化して、保護者の方々に個々に発信することなども…。授業参観や行事公開による情報共有の推進も。

③湖北中学校学力向上については、長年の課題となっています。どうしても久寺家中、我孫子中学校、白山中学校と比較されますが、地域の保護者の意識レベルが違い、小学校から学習への取り組み方が違います。机に向かうためのノートによる自主学習の取り組みも効果が低いと思います(生徒によっては義務化)。例えば月、水、金は課題プリントなどを導入するなどしていくべきだとも思います。

④自転車通学区の緩和が非常に良いことと感じました。朝の通学について、学校始業前の自習の時間や、学校内で英単語に触れる機会の向上など、各所に書かれていたりするとおのずと理解を深めるのではないかと考えた次第です。

⑤概ね生徒の学力を高める取り組みとなっていたと思量します。

⑥”1の学校経営”同様、「そう思う」という評価割合が「大体そう思う」より低い事は課題だと思います。家庭学習の定着については、家庭の責任も少なくないものと考えますが、保護者の評価が総じて低いように思います。

⑦標準学力調査の結果(校内平均、目標値)があると我々も客観的に学力の向上の状態について掴めると思いますので検討いただくと幸に存じます。

⑧この項目に関しての教職員の皆さんの評価が、学校生活と同様に積極的評価(そう思う)が少ないことの要因分析と対応をお願いします。

## 3. 学校生活について

- 本校の生徒指導は、生徒たちの「よりよく生きようとする心や意欲」を高める取り組みとなっていたか。

①今の子供たちは、本当に素直なんですね。ですので、何か大きなハプニングや挫折のようなことがあったとき、「なにくそ！負けないぞ！」と言うような強い気持ちは育てているのかな・・・と中学(湖北中)だけでなく、世の中の子供たち全体に抱いている思いです。

②概ね学校の期待に沿った子供たちの対応ではないかと思われれます。「生徒の悩みや相談への対応」では、生徒・保護者ともに15%はそう思わないという回答です。しかしその事は、把握する難しさもありますが、保護者の学習への”不安”とともに広がっているのではないのでしょうか。

③生徒指導については、生徒・教職員の方々と考えが同じ価値観を共有し、ほぼほぼうまくいっていると思います。部活動や合唱など、困難の中で、1つの共通の目標に向かって具体的な活動することが最大の学びであり、学習への意欲ともなると思います。コロナで地域との結びつきが困難でしたが、今後、地域ボランティアや地域との交流をいっそう進める学校生活に深みと厚みが生まれることを願っています。

④生徒たちも初めて経験するコロナウィルス感染対策も実行している中で、教職員の皆さんも真剣に取り組んでいたと思います。一年生の総合学習など、自主的に取り組む体験も可能な限り生徒たちの考えや意見を優先させていた。

⑤生徒が主体となる活動が少なく評価しづらいところです。

⑥概ね高める取り組みとなっていたと思量いたします。

⑦自己評価表を拝見してのコメントで誠に恐縮ですが、積極的評価である「そう思う」の割合が圧倒することを特に強く望みます。(三者の全てにおける評価で)

⑧生徒自身の自己評価と保護者・教職員の評価のギャップは特徴的ですが、だからこそ、保護者・教職員が生徒の間違った行動や言動に対しては、生徒の自己肯定感を阻害することのないように留意しつつも、厳しく向き合うことが必要だとも思います。

※コミュニティースクール実現に向けた初年度として、校長先生の期待に沿う活動が十分に出来なかったことをお詫びいたします。家庭・地域・学校が総ぐるみで子どもを育てていく事はとても大切だと思います。この後ぜひ次年度に。ありがとうございました。